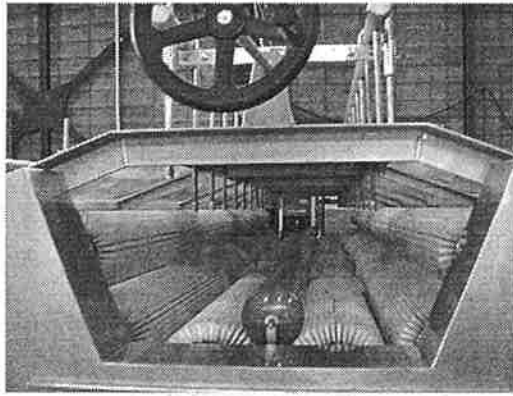


「葉付大根洗浄機」を韓国に輸出

市内の製造業「エフ・イー」が開発

野菜の洗浄機などを製造・販売しているエフ・イー(佐々木通彦社長)は11日、同社の「葉付大根洗浄機」が韓国に輸出されることを明らかに



エフ・イーが開発して韓国に輸出されることになった「葉付大根洗浄機」

した。旭川の製造会社が開発した商品が商社を通さず、直接海外に輸出されるのは極めて珍しいという。大根の葉には優れた栄養が含まれ、消費者も葉のついたままの商品を好むようになってきている。

しかし、葉がついたままの状態では洗浄が難しかった。同社は形状記憶樹脂を使ったソフトブラシや高圧扇状型特殊ノズルを独自に開発し、コンパクトな洗浄機を製作。1999年(平成11年)から「葉付大根洗浄機」として実用化、翌00年から販売を始めた。

他のメーカーにはない特徴が評判となり、国内で150台以上を販売するヒット商品になった。この評判を聞きつけたのが韓国の農業コーディネーター

「ガナンナチュル」社。幹部社員4人が今年4月末に同社を訪れ、実際の稼働状況を確認して輸入を決めた。

エフ・イーは、これまで商社を通して同機を台湾に輸出した例はあるが、自社ルートでの輸出は初めて。韓国への輸出が決まった機械は一日2万本を処理できる機種で、約3千200万円の商談となった。苫小牧から韓国の釜山までフェリーで送り、その後、北朝鮮に近い陽口まで運ばれ、8月には設置される予定。

このほかにも今回の5倍の処理能力を持つ機種の商談も進んでいるという。

佐々木社長は「旭川の企業が直接商品を海外に輸出するのは無理だと思っていた。しかし、今回は産業高度化センター、商工会議所、市商工部などが積極的に支援してくれて実現した。商品には自信があるので今後も海外へ目を向けた販売を進めた」と話している。